



大震災から10年・交流の記憶⑩

## 魅力的な地域・人間・文化を発信 「記録する」仕事に使命感を持って

震災前、松本さんの家は榎葉町の沿岸部にあり、「何かの際にはJヴィレッジに避難しよう」と家族内で決めていた。震災の日、Jヴィレッジで家族とは無事合流できたが、自宅は津波に流され何もかも失った。

その後、いわきで避難生活を送っていると、2015年、津波被害を受けた豊間地区にある妻の実家が高台への移転を求められ解体することに。その頃双葉郡でも希望者の家屋解体が始まっていた。家を壊したら思い出がなくなる。「記録することの大切さ」を感じ、ドローンなら地域全体の撮影ができると考え、双葉郡での撮影をスタートさせた。最初は双葉の人たちと思うようにつながることができなかったが、クラウドファンディングを始めると、メディアに取り上げられることが多くなり、知り合いも増えた。

「震災後の人と人とのつながりがおもしろい。人の紹介が続ぎ、刺激になる人との輪がど

んど広がっていく」。いわきの地域づくり団体の交流会などにも参加するようになる。その輪から田人小学校の校長と出会い、「創立150周年記念式典に向けた準備を手伝ってほしい」と依頼され、1年近く撮影を続けている。他にも、四倉町を拠点とする「福島田んぼアープロジェクト」の運営にも携わるようになってきた。撮影を通じて様々な地域と関わっていくにつれ、地域の元気を伝えていきたいとの気持ちが強くなり、地域の情報発信にも力を入れるようになった。「震災でネガティブなこともあったが、いわきでの新しい人とのつながりと交流によって、活動の幅も広がった。」

解体される家屋の記録を続けながら、新たに取組んでいる地域の魅力発信を通じ、「多くの人が関わって楽しんでもらえるものを作りたい。魅力的な人を地域の隔たりなくつなげていきたい」と思う。震災を乗り越えてきた今、何気なく生活している日常は当たり前のもではないと考ええるようになった。「伝統や文化は、形やコンテンツが変わっても先代の残してきたもの。それを受け継ぎ、先代の想いを知って後世に残していきたい」と松本さんは願っている。



株式会社 FiveStar  
代表取締役  
松本 淳さん

榎葉町出身。震災でいわき市に避難後、2015年から始めたドローンを使った事業がメディアにも取り上げられ注目を浴びている。被災した地域の記録だけでなく、いわき市四倉町を拠点とする「福島田んぼアープロジェクト」の運営・撮影に携わるなど、多くの地域で元気な情報を発信する新しい取り組みを始めている。